

私たちにできること

読谷中学校三年 阪口 真心

どうして戦争をするのだろう。本当の平和
 っ て何だろう。どうして戦争をするのか、
 る意味はあるのか私にはわかりません。戦争
 をしても失うものばかり。植物も、動物も、
 人の命までも奪っ てしまふ。それなのにどう
 して人間は何度も戦争をくりかえすのだろう。
 私は沖縄に生まれ、小さいころからたくさ
 んの平和学習をしてきました。戦争に関する

本を読んだり、映像を見たり、ガマや壕へ行
 っ て中の様子を体験したりもしました。また、
 ひめゆり平和祈念資料館では戦争体験者の方
 の話を聞くこともできました。私は、戦争に
 ついて学ぶたびにひどく胸がしめつけられま
 す。 どうして支え合えないといけないはずの
 人間が殺し合えないといけないのか、人種や
 性別、国籍が違うだけなのになぜこんなにも
 苦しめ合うのか。

六月、学校の生徒玄関前に戦争に関するパ

ネルが展示され、道徳の時間にそれを見る機会がありました。戦時中の学校や読谷村の様子、人々の生活などについて写真を交え、当時の様子をわかりやすく伝えていました。なかでも私が衝撃を受けたのが、私の通っている読谷中学校が戦争当時、大きな飛行場として使われていたということ。毎日私たちが勉強している場所が戦場だったということ。が全く想像できず、複雑な気持ちになりました。

また、戦争当時の人々がカエルやタニシ、ネズミなどを食べていたということは驚きでした。戦争という状況なら、自分も口にしていたのかもしれないと思うと、今の生活を本当にありがたく感じました。私は「平和」戦争がなくなること、ではなと思います。戦争がなくなっても、いじめや差別など人権が脅かされることがあれば、平和とはいえないはずです。でも、戦争がなくなることには平和への大きな第一歩になると

思います。

正直私は「本当の平和」とは何なのか聞かれると答えられません。なぜなら戦争を体験したこともないし、苦しい状況の中で平和について考えたことがないからです。でも「平和」と聞いて思い浮かぶことはたくさんあります。「生きていること」「夢や希望が持てること」「ご飯が食べられること」「小さな平和をたくさん増やしていけば、いつか大きな平和につながるはずです。

6

そして私たちは今ある幸せに気付かないといけません。私たちが寝ているときも、ご飯を食べているときも、いまこの瞬間も世界のどこかで戦争は起こっています。今生きているのは当たり前ではないのです。

戦争を知り、伝え、行動する。戦争を体験していない私たちは知ることしかできません。だからこそ、戦争体験者が減っている今、勇気を出して伝えてくれた戦争の恐ろしさ、命の尊さを世界に伝え、語り継いでいかないと

いけません。私たちにできること、それは一人でも多くの人に知ってもらうこと。そして知ろうとすること。

人間はひとりひとり自分の考えや意見を持つています。だからお互いの意見が食い違ふこともあるかもしれせん。それは仕方ないことだと思ひます。でも、だからといってそれを力で解決しようとするのはよくありません。相手の意見を否定せず受け入れ、認め合つて話し合えば争いごとにはならないはずですよ。

私たちはこれから地球上で生きていく一人の人間として一人一人が考えなければいけません。未来は変えられるのです。私はこれから戦争について知り、平和について考えたいです。二度と同じ過ちを繰り返さないように。